令和４年度　のぐち童夢園自己評価

社会福祉法人クローバー福祉会
認可保育所　のぐち童夢園

保育理念	「共に生きる」　認め合い・高め合い・育ち合う
保育目標	「たくましい心と体」を育む　・元気な心と体　・優しい心　・頑張る心

中　期　目　標	本年度の重点目標
園児：季節体験・集団遊びを通した気付きの芽を育成する。 職員：子に寄り添う姿勢を基本にし，資質向上に努め指導力を高める。 施設：感染防止に留意し，消毒・換気等を徹底する。	子どもを真ん中に，園と保護者が手をつなぎ，子どもの安全対策・食育指導を共有した子育て支援に取り組む。

自己評価（保育の計画・健康及び安全：職員の資質向上と自己評価の３領域）

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	今年度の状況
保育の計画	(1)保育課程の編成	保育所保育方針に示されたねらい，内容を生活に取り入れた編成	A	保育指導の効果的な指導を進めたが，コロナ禍の中，保育活動の制限に柔軟に対応できた。
	(2)指導計画の作成と展開	長期・短期計画の作成	B	PDCAサイクルの中のC（チェック）を意識し，次年度に効果的な活動に繋げさせたい。
		生活の連続性・子どもの姿を考慮	A	季節感を意識した行事体験を通して，身に付けさせたい思いを取り組むことができた。
	(3)発達過程に応じた保育	未満児の個別計画	A	月齢に応じた個別指導計画に沿った保育がなされた。
		以上児への協同的な活動の促し	B	周りの子との関わりを大事にした活動を重視した。主体性を育てていきたい。
	(4)特別支援保育の対応	指導計画への位置づけ	A	到達目標を設定した個別計画を作成した。
		保護者・関係機関との連携	B	多様な行動をする子どもの指導法を関係機関と連携し、更に進めていきたい。
	(5)関係機関等との連携	関係校区小学校との連携	B	定期的な相互参観及び情報交換の充実を図りたい。（各就学先小学校担当職員）
		保護者・地域との連携	B	コロナ禍はかなり落ち着いてきたが，地域行事等への参加は制限があり十分できなかった
健康及び安全	(1)子どもの健康支援	健康状態等の把握と疾病等への対応	A	登園時の健康状態の確実な把握，体調不良時の対応及び看護師による衛生指導を進めた。
	(2)環境及び衛生管理 安全管理及び業務の改善	設備・用具などの衛生管理	B	定期的な点検結果をもとにした園全体の安全管理及び修繕に努めた。
		安全点検・避難訓練等の実施	A	毎月１回は実施した。緊張感をもたせ，消防署からの指導を受け，まずは０歳児の確実な避難を目指した。
	(3)食育の推進	食育計画の作成と実施	A	栄養士を中心にクッキング教室やお話し会を実施し，食に対する意識の高揚に努めた。
		アレルギーなどへの対応	A	おやつの成分把握に留意した。また，成分チェックの必要性を感じた。更なる注意に心掛けたい。
職員の資質向上	(1)施設長の責務	法令順守・職員指導・研修への促し	B	関係法規等を遵守し，子どもの健全育成に繋がるよう全体及び職員の状況の把握・指導に努めた。
	(2)自己研鑽	研修等への積極的な参加	A	対面形式等制限がかかりリモート等による研修が中心になった。園内研修の充実に励んだ
	(3)目標管理	一年間の目標設定と振り返り	B	中・長期目標及び職員一人一人の自己評価を見直し，次年度の改善策に努めていきたい。

達成状況：A　良好　　B　おおむね良好　　C　やや改善　　D　要改善

(総合評価)　A

○新型コロナウィルス感染防止による行事の精選や規模縮小の中，記憶に残る保育活動ができるように子どもを真ん中に置き，園と保護者が手をつなぎ，信頼関係を樹立させ，満足できる活動を目指した。
○自然や人・生き物との触れ合い体験活動を計画的に進め，発達年齢に応じた関わり方の成長を見届け・記録・連絡等，保護者への啓発に努めた。適切な記録・明快な伝達ができるように職員の資質向上を更に目指したい。
○子どもたちが，喜んで登園・満足して降園できるよう安心安全な園づくり・園経営を進めていきたい。
○職員が誇れるよう，職場環境の改善・充実を目指し，魅力ある職場を目指したい。

令和　５年　３月31日
社会福祉法人クローバー福祉会
認可保育所　のぐち童夢園
園　長　上村　聡子　　印